

## 果たして？最難課題の集約エリア！？

# 上信国境 米子不動 龍神エリア IC

日本の誇る氷の殿堂、米子不動へ今年も行くことが出来た。今回で4回目となる米子不動の目的エリアは龍神エリアである。龍神エリアには、龍神、アナコンダ、コブラ、味ともと4つの氷瀑がある。前回同様に、米子橋にベースを置いて、2-3の氷瀑が登れば良いと思っていたが、結果としては4つ全ての氷瀑を登るという成果を挙げることができた。

出発地点である林道入口へ着くと、伐採作業のため進入禁止になっているので、車を止めて準備をしていると森林組合の作業の方がやってきた。出発したところで、「乗っていくかい？」とありがたいお言葉。トラックの荷台に乗って、伐採作業場まで乗が出来た。そこからは、いつものように登攀用具、宿泊用具を満載した橇を引いて林道を進む。数日前に雨が降ったのと気温が高いせいもあり雪が締まっていて歩きやすい。1時間30分ほどで、米子橋に着き、今までで一番楽なアプローチであった。

## 味とも 100m VI

早く着いたので、偵察だけのつもりを切り替えて、アナコンダを登りに行くつもりで出発する。展望台への周遊に向かった先行パーティのトレースを辿って河原を辿っていくと、左岸の高いところに龍神とおぼしき氷瀑が見える。少し回り込んだ方がよいだろうと、進んで赤布のついた沢から詰めていく。沢の上部正面に見える氷瀑を目指して登っていく。2条の滝は右の氷柱は上部でツララとなって繋がっていないが、左は見事な氷瀑となっている。この氷瀑を、このときはアナコンダとコブラの両滝と思った。コブラの氷結状態が良いとの事前情報だったが、直前の雨で溶けてしまったのかと思った。ともかく、左のアナコンダと思われる氷瀑に取付くことにした。結果的に、これは味ともとの間違いで、それに気づいたのは翌日であった。

1ピッチ目は、垂直部分を避けるように右に左に弱点を探してトラバースすること2~3回。トラバースが入るので、バランスもとりづらく、硬い氷で登りづらい。ロープを40mくらい伸ばして、上段の氷柱の基部となっている右側テラスでピッチを切った。体感グレードV+。

2ピッチ目は、そこから真上に登っていくのが素直なラインなのだが、ガラガラのツララの集合体であるため、うかつに氷を叩いたり、足場を何度も蹴ったりすると、落氷が激しそうで、プレイヤーを直撃してしまいそうだ。そのため、直上せず氷柱を回り込むように左へとトラバースしてから登っていくと、ハング気味の氷柱のライ

【日程】 2017年2月  
25日(土)~27日(月)

【メンバー】

小暮 (L)、笹川

【地形図】 四阿山

【最高ピッチグレード】 VI

【記】 小暮



味とも 1ピッチ目

ンに嵌ってしまい、それが運の尽き。難しいラインに苦勞して、無念のアクステーション。しかもアナコンダだと思って安易に取付いていたので、フィフティも用意していない。クイックドロウでのアクステーションとなり、テンションするまでも相当の腕力を消耗してしまい、そこからはアクステーションしまくり各駅停車での登りとなってしまった。氷も硬くて、厳しいVI級のグレードだった。この時点で、まだアナコンダを登っていると勘違いしていたのだから、情けない。登るのに時間がかかってしまい、フォローの笹川が登ると日没にかかりそうなため、リードの小暮のみ2ピッチ目は登り、灌木の終了点から元のビレイ点へと懸垂で降りる。1ピッチ目終了点には、残置アバラコフスリングがあったので、そこからもう1ピッチ懸垂して終了とした。思いのほか苦勞したため、テントに戻る頃にはすっかり日が暮れてしまった。テントには、もう1パーティのテントが増えていた。

その日は、アナコンダを登ったと勘違いしていたので、龍神エリアで一番易しいはずのアナコンダですっかりアクステーションとなったと意気消沈したのであった。

翌日になってから登ったのは「味とも」だったと分かって納得したが、龍神エリアではコブラと並んで難しい氷瀑とされているが、体感ではこちらの方が難しいと思った。「味とも」というちょっと冴えない氷瀑のルート名は、初登者が米子不動の帰りに立ち寄っていた料理店の名前からとったのだとか。名前からは想像しにくい難ルートである。今回はアクステーションしまくりとなってしまったし、笹川も2ピッチ目は登っていないので、またいつかリベンジしたい課題である。

## 龍神 110m VI-



幅広の龍神を登る

2日目は、龍神へと向かう。まだ朝の時点では昨日の間違いに気づいていないので、前日の氷瀑よりやや左だろうと、沢型から左の尾根に乗って龍神を探す。しかし、昨日の滝の左にあるはずの龍神が見当たらない。ここに至って、ようやくアナコンダと「味とも」の間違っていたことに気づき、改めてトポの写真と現物を見比べてみると、トポの写真とは氷結状況がことなるものの、昨日登ったのが「味とも」だったとははっきりとわかった。このところルートに行っていないので、山の勘が鈍っていると思った。

気を取り直して、改めて龍神へと向かうが、いったん沢を降りて再び登り返すのも時間のロスになるので、氷瀑の右側につづく岩場の基部を右へ右へとトラバースしていくことにした。なかなか急なところもあったが、うまくつなげることが出来、なんとか正しい龍神の取付きへとたどり着くことができた。行ってみると、アナコンダを登っていると思しき3人パーティのコールの声も聞こえた。いやいや無駄に時間を費やしてしまった。

龍神は、高さ110mで非常に幅広の見栄えのある氷瀑だ。テン場からも大きくその姿は遠望できる立派な滝なのである。下に立って、よくルートを見ると、昨日間違えて登った「味とも」に比較すると登りやすそうだ。

1ピッチ目は、登りやすそうな左側から取付く。昨日のアクステーションが嘘のように調子が良い。

氷は少し水が滴っており、硬さも無くて登りやすいように感じる。50mほど伸ばしてテラスでピッチを切る。ビレイポイントでは、下降用にアバラコフを作っておく。

フォローを向かえ入れて、2ピッチ目は60m一杯でちょうど終了点へたどり着いた。なかなかのスケールの素晴らしい氷瀑だった。2ピッチの懸垂で取付きへ。

## アナコンダ 135m V+

龍神を登り終えて、右へ尾根を越すとアナコンダ(左)とコブラ(右)の二つの滝。昨日、味ともの右のつながっていない氷瀑と見間違えたコブラは、事前情報通り、しっかりと繋がっていた。この時点で、14時前の時間で、押しはいるが、龍神エリアの中では一番やさしいアナコンダであれば、なんとか登れる時間があるなど、ムクムクと登攀意欲が湧いてきた。小指の怪我が治りきっていない笹川には申し訳ないが、アナコンダを登ってしまうことにする。丁度、先行パーティのフォローが2ピッチ目を登っているところで、上から落氷が少々あるが、気を付けて登れば大丈夫だろう。

時間をあまりかけずにサクッと登りたいので、一番登りやすそうなラインをさがすと、やはり先行パーティが登った右からのラインとなる。取付いてみると、味とも、龍神はバージンアイスだったので比較して、先行パーティの氷の穴があるので、たいして打たずに引っ掛けて登れるので楽しんだ。アナコンダも龍神同様にややシャワー気味なので、グローブはテムレスを使っていたのが正解であった。段差のバーチカル凹角を抜けたところまで、60mいっぱい伸ばす。中段テラスの下でピッチを切った。上を見ると、先行パーティは3ピッチに切っていて、最終ピッチのリードで苦労しているのが見えた。隣を見ると、コブラの氷柱がすごい迫力。こちら、2人パーティと単独の人が登っており、絵になる眺めである。

2ピッチ目は、緩い氷を30m位ロープを伸ばし、最後がシャワーでぐずぐずのプロテクションが取りづらいバーチカルである。溶けたツララの集合体でたたくと落氷が激しいし、まともにスクリーが効きそうところが無く、悪い。先行パーティが苦労していたのもわかるというものだ。どう攻略しようかと思ったが、右側から登っていくと、なんとかプロテクションが取れるしっかりした氷もあり、落氷をしないように慎重に抜けて60m一杯で、なんとか落ち口の上へと着く。しかし、灌木の終了点まであと15m届かない。傾斜が緩い部分があるためか、下から見るとずっと大きい氷瀑で135mはあるだろう。ここで、フォローの笹川には先行パーティがピッチを切っていた途中のテラスまで登ってもらい、ここにある残置アバラコフを支点にいったんセルフを取ってもらった。

ここから残りの15mを灌木までロープを伸ばし、終了点へ。2ピッチ目は最後がシャワーになっていたためか、ロープがすっかり凍り付いてしまい、ビレイするのに大変であった。2人登り切る頃には、すっかり日没間際になってしまった。

ここからヘッドランプを点けて懸垂を開始したのだが、ここでトラブル発生。笹川が懸垂のバックアップに使っていたスリングが凍り付いてしまい、身動きが取れなくなってしまった。四苦八苦した挙



アナコンダ 135m 登りやすい

句、結局ナイフでバックアップスリングを切断して懸垂下降を続ける。上段テラスの残置アバラコフスリングで中継して更に懸垂下降を行う。60mで下まで届かないので、もう1ピッチの懸垂となるが、すっかり真っ暗になってしまい途中にあった残置アバラコフがわからず、自分でアバラコフを作ってもう1ピッチ懸垂下降した。ここで、アバラコフ用のフックを登っている時にいつの間にか落としてしまったらしく、焦る。やばいと思ったが、持っていた結束バンドを作ったアバラコフの穴に押し込んでうまくスリングを通すことが出来たので、助かった。いろいろと代用の方法は持っておくものである。結局2日目もすっかり夜になってしまっただけでベースへと戻る。一日で2本登ったので腕はパンパンであった。

## コブラ 110m VI-

3日目は、コブラを目指す。3日目にして、ようやく正しいアプローチで登っていく。次第にコブラとアナコンダの両滝が見えてきて恰好良い。

1P目は、弱点となっている左側から登る。丁度、昨日登っていたパーティもあり、氷は硬いが登った穴が使えるので、比較的登りやすい。段々を越えると、左側の岩に挟まれた凹角のラインとなりツララ氷の筈の下のテラスまで50mである。

2ピッチ目は、ツララ下を氷柱の表へ回り込んで、直上する。が、氷の正面に出たとたんすごいシャワー。低いところで支点を取ると、ロープの流れが悪くなるので、一段登ってからスクルーをきめる。登る前に考えてた、易しい右のラインはシャワーでジャージャーなので、しかたなく垂直の氷を直上していく。水を避ける左は氷が硬く、柔らかくて登りやすい右はすごいシャワー。その中間を60m一杯に伸ばし、終



コブラ 1P目 弱点を登る

了点へ。バーチカルでしんどいが、氷が柔らかくてその点は助かった。見た目ではすごい迫力があるが、やはり氷は硬さと登った形跡の有無が難易度に大きく影響すると思う。

下降は、2ピッチの懸垂下降となり、1ピッチ目終了点のアバラコフで中継なのだが、真つすぐ降りて行ったら、支点の2mほど左の空中へ出てしまった。アックスを使って振り子で、支点へ到達するのが大変だった。

改めて、下降しきって滝をじっくりと眺める。やはりコブラはすごい迫力で、登り切ったことに大変満足した。今年は氷の発達も良く、シャワー気味で登りやすい感じもあったので、お買い得だったのだろう。

下山は、いつものように荷物を橇に乗せて林道をてくてく歩く。車で乗せてもらった作業現場からは圧雪された雪道のおかげか、橇がよく滑るのでとても歩きやすかった。車に戻るとすっかり日が暮れてしまい、3日も毎日充実したクライミングであった。3日間で4本の巨大な滝を登ることができたが、その後の1週間は体がバキバキで大変だった。

## 【行程】

- 2/25 伐採作業場/米子集落より約5km(9:05)～米子橋BC(10:40/11:15)～味とも取付(13:00/45)～1Pリード(14:25)～1Pフォロー(15:20)～2Pリード(16:55)～下降～取付(17:30/50)～BC(18:50)
- 2/26 BC(6:30)～味とも取付(8:00)～龍神取付(8:30/9:10)～1Pリード(10:05)～1Pフォロー(11:25)～2Pリード(12:10)～2Pフォロー(12:50)～下降～取付(13:15)～アナコンダ取付(14:00)～1Pリード(14:35)～1Pフォロー(15:40)～2Pリード(16:30)～2Pフォロー(17:35)～下降～取付き(19:05)～BC(20:10)
- 2/27 BC(7:00)～コブラ取付(8:35/9:00)～1Pリード(9:40)～1Pフォロー(10:25/35)～2Pリード(11:30)～2Pフォロー(12:50)～下降～取付(13:40/14:10)～BC(14:45/15:30)～米子集落(18:05)



アナコンダと  
コブラをバックに



味とも (左)

味とも右の氷瀑は  
繋がってなかった

YONAGO FUDO PHOTO GALLERY 2017 / Ryujin area



味とも 100m VI



味とも



龍神 110m VI-



ア+コンダ 135m V+ コアラ 110m VI-